

診断テスト [B]

中2/直ったか 確かめる 20問/目標 20分

なまえ _____

ひづけ _____

- ・ [A] で ×だったところを直したあと、20問で確かめる。答えを □ に書く。計算は別の紙で。
- ・ 答えは数だけ書く（「点」「人」は書かない）。小数は 5.5 のように書く。
- ・ ア・イ・ウ・エ から選ぶ問題は、正しい記号を ○ でかこむ。四分位数は教科書の方法で求める。

- ① 9人の点数 1、3、4、6、8、9、11、12、14
第1四分位数は？

- ② 7人の点数 6、14、14、15、17、19、26
第1四分位数は？

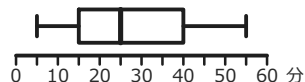
- ③ 9日間の歩数 14、6、11、19、8、3、16、9、12
は日ごとの記録。中央値は？

- ④ 6回の記録(m) 24、27、31、36、38、45
真ん中にあたる中央値は？

- ⑤ 12個のデータ 3、4、6、9、10、13、
15、16、18、21、22、25
第3四分位数は？

- ⑥ データ 13、16、18、22、27、30、38、52
四分位範囲は？

- ⑦ 図は通学時間。
箱の長さは何分？



- ⑧ 通学時間(分) 12、14、15、15、16、17、18、60
60を20に直しても変わらないのは？

ア 四分位範囲 イ 範囲 ウ どちらも変わる

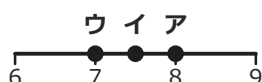
- ⑨ 箱ひげ図のデータ 2、3、4、5、6、9、27
箱の中の線の値は？

- ⑩ データ 4、7、9、12、14、15、19、22、24、30
箱ひげ図の箱の左はしと右はしの値は？

ア 4と30 イ 9と14.5 ウ 9と22

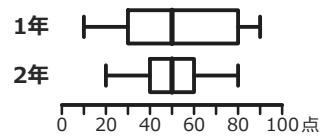
- ⑪ 第3四分位数 7.5の
点は何個？

ア イ ウ



- ⑫ 1年は30人、2年60人。
箱の中の人数は？

ア 1年が多い イ 同じ
ウ 2年が多い



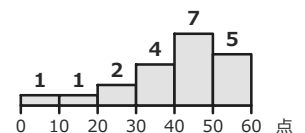
- ⑬ 箱ひげ図にした80人の点数。
第3四分位数以上の人は
約何人？

- ⑭ 31人の点数。中央値72点、第3四分位数85点。
70点以上は半分以上と言えるか？

ア 言えない イ 言える

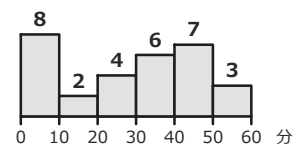
- ⑮ 図は20人の点数。
箱ひげ図のひげが
長いのは？

ア 左 イ 右
ウ 同じ長さ



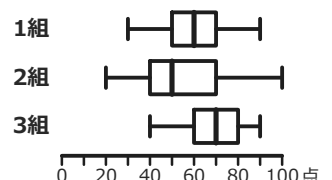
- ⑯ 図は30人の通学時間。
中央値の階級は？

ア 0～10分 イ 20～30分
ウ 30～40分



- ⑰ 図は1組～3組の
点数。全体として
成績がよいのは？

ア 1組 イ 2組 ウ 3組



- ⑱ A班の中央値は55点、B班は64点。
B班がよい理由を、数で正しく示すのは？

ア 中央値が高いのでB班がよい。
イ 中央値がB班64点、A班55点なのでB班がよい。
ウ 人数がB班20人、A班16人なのでB班がよい。

- ⑲ データ 2、4、6、7、9、11、13、18 と
同じ箱ひげ図になるのは？

ア 2、3、7、8、8、10、14、18
イ 2、5、6、7、9、12、12、18
ウ 3、4、6、7、9、11、13、18
エ どれもならない

- ⑳ データ 3、6、8、11、14、16、18、21 に
13を1個加える。中央値は？



診断テスト [B] 【こたえ】

中2/直ったか 確かめる 20問/目標 20分

なまえ _____

ひづけ _____

問	正答	×のときの誤答	つまずき	やるところ（記事の小単元）
①	3.5	4	中央値を前半に入れる	①四分位数：奇数個
②	14	10.5	値の真ん中で出す	①四分位数：奇数個
③	11	8	並べ替えずに数える	②四分位数：偶数個・並べ替え
④	33.5	31	真ん中2つの平均なし	②四分位数：偶数個・並べ替え
⑤	19.5	18	前半の平均をとらない	②四分位数：偶数個・並べ替え
⑥	17	39	範囲で答える	③範囲と四分位範囲
⑦	25	10	中央値-第1で出す	③範囲と四分位範囲
⑧	ア 四分位範囲	ウ どちらも 変わる	極端な値で判断する	④四分位範囲のよさ
⑨	5	8	線を平均値にする	⑤箱ひげ図をかく
⑩	ウ 9と 22	ア 4と 30	箱を最小～最大にする	⑤箱ひげ図をかく
⑪	イ 7と8の まんち	ア 8・ウ 7	小数を丸めて目盛る	⑤箱ひげ図をかく
⑫	ウ 2年が多い	ア 1年が多い	箱の長さ=人数と読む	⑥箱ひげ図を読む：割合と人数
⑬	20	60	以上と以下を 逆に読む	⑥箱ひげ図を読む：割合と人数
⑭	イ 言える	ア 言えない	Q3で半分以上と判断	⑦箱ひげ図を読む：半分以上
⑮	ア 左の ひげ	イ 右の ひげ	山の側にひげが長い	⑧ヒストグラムと箱ひげ図
⑯	ウ 30～40分	ア 0～10分	最頻の階級にする	⑧ヒストグラムと箱ひげ図
⑰	ウ 3組	イ 2組	最大値だけで比べる	⑨比べて説明する
⑱	イ 中央値で 比べる	ア 中央値の 値が ない	根拠を 値で 比べない	⑨比べて説明する
⑲	ア 2、3、7、8、8…	エ どれも ならない	元データは1通りと思う	⑩発展：箱ひげ図から考える
⑳	13	12.5	1個足しても同じと思う	⑩発展：箱ひげ図から考える

×が ついた 問を 小単元ごとに 数える。×が多い 小単元から、同じ数なら 上の 行から やる

①四分位数：奇数個	①②	× () /2	⑥箱ひげ図を読む：割合と人数	⑫⑬	× () /2
②四分位数：偶数個・並べ替え	③④⑤	× () /3	⑦箱ひげ図を読む：半分以上	⑭	× () /1
③範囲と四分位範囲	⑥⑦	× () /2	⑧ヒストグラムと箱ひげ図	⑮⑯	× () /2
④四分位範囲のよさ	⑧	× () /1	⑨比べて説明する	⑰⑱	× () /2
⑤箱ひげ図をかく	⑨⑩⑪	× () /3	⑩発展：箱ひげ図から考える	⑲⑳	× () /2

- ①は 9個なので 中央値 8を 除いて 前半4個 1、3、4、6 の 中央値で 3.5 (4 は 中央値も 入れた ×)。
 ②は 前半 6、14、14 の 中央値で 14 (10.5 は (最小値+中央値)÷2 で ×)。個数の 真ん中で 決める。
 ③は 小さい順に 3、6、8、9、11、12、14、16、19 と 並べて 5番目の 11 (記録した 順の 5番目 8 は ×)。
 ④は 6個なので 3番目 31 と 4番目 36 の 平均で 33.5 (31 は 平均を とらない ×)。
 ⑤は 12個なので 後半 15、16、18、21、22、25 の 中央値=3番目 18 と 4番目 21 の 平均で 19.5 (18 は ×)。
 ⑥は 四分位範囲=34-17=17 (39 は 最大-最小の 範囲で ×)。
 ⑦は 箱の 長さ=第3四分位数-第1四分位数=40-15=25 (25-15=10 は 中央値-第1四分位数で ×)。
 ⑧は 60が あっても 四分位範囲は 3で 変わらない。範囲は 48から 8へ 変わる。
 ⑨は 箱の 中の 線は 中央値 5 (平均値 56÷7=8 は ×)。
 ⑩は 箱の 左はしが 第1四分位数 9、右はしが 第3四分位数 22。4と 30は ひげの はし。
 ⑪は 7.5 は 7と8の ちょうど まんち。目盛りの 7や8に 合わせず 間に 点をとる。
 ⑫は 箱の 中には 全体の 約半分が 入る (1年 約15人・2年 約30人)。1年の 箱は 長いが、長さは 人数でなく 値の はば。
 ⑬は 第3四分位数 以上は 全体の 約4分の1=20人 (60人は 第1四分位数 以上)。
 ⑭は 31人の 中央値は 16番目の 72点。72点以上が 16人 いるので、70点以上は 半分以上 と 言える。
 ⑮は 山が 右で 左へ 裾が のびる ので 左の ひげが 長い。
 ⑯は たすと 8、10、14、20、27、30人。15・16番目は 30～40分 (いちばん 高い 0～10分は ×)。
 ⑰は 中央値も 箱の 位置も 高い 3組 (最大値が 大きい 2組は ×)。最大値は 1人の 値。
 ⑱は 中央値の 値 (64点と 55点) を 比べて 示した イ。値のない 理由や、人数の 数は 根拠に ならない。
 ⑲は 元の 5つの 値が 2、5、8、12、18。アも 同じ 5つの 値になる (イは 第1四分位数が 5.5、ウは 最小値が 3)。
 ⑳は 13を 加えて 9個。5番目の 13 (加える前の 12.5 は ×)。
 丸つけ 答えは 数だけで ○ (「点」「人」が あっても ○)。選ぶ 問題は ○をつけた 記号で 見る。